



▲三角西(旧)港。調査員が築港当時の姿を残しているかどうか質問をしたり、埠頭や水路などを確認したりしました。



▲三池港。今も稼働している開門の仕組みや保存状態などについて調査が行われました。

イコモスの現地調査終了!

今秋、ユネスコの諮問機関であるイコモス(国際記念物遺跡会議)が現地調査を行いました。三池エリアは、10月1日に三角西(旧)港、2日に三池港、宮原坑、万田坑や三池炭鉱専用鉄道敷跡の調査を実施。関係省庁、自治体、資産保有者が資産の保全について説明を行いました。



▲原万田字妙見の山の神。鉱夫が安全を祈願していました。今でも住民がしめ縄を張り、榊を供えて大切に守っています。

造船です。これらを外国に販売することで外貨を獲得し、近代化に必要な機械や技術を導入しました。日本が当時の主力エネルギーである石炭を自前で調達することができたのは、三池の石炭のおかげと言っても過言ではありません。また、政府が官営炭鉱であった三池炭鉱を三井に払い下げたことで、三井財閥の基礎にもなりました。まさに三池エリアは日本の産業革命の集約点でした。

高品位で豊富な埋蔵量の三池の石炭は明治・大正・昭和の日本を支えました。それだけでなく、石炭は私たちのまの発展・繁栄に大きく貢献しました。今でも、まちのあちこちに炭鉱のまちの姿が残っています。その歴史を後世に伝えています。

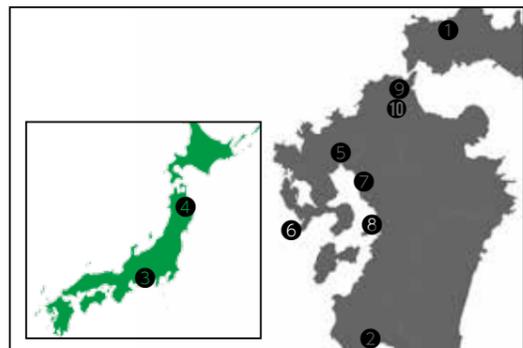


▲ことし7月、東京で産業遺産国際会議が行われました。安倍首相など関係者が出席し、世界遺産登録への機運を高めました。

平成18年、九州地方知事会議で「九州近代化産業遺産の保存・活用」が決定し、関係県での取り組みへと発展しました。以来、資産を後世へ残すため、地元住民や関係者の努力と熱意で、資産周辺の清掃、ボランティアガイドの育成、学校や地域での資産見学会などが盛んに行われてきました。

昨年9月、世界遺産の政府推薦候補に「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」が正式決定。ことし10月のイコモスの現地調査、来年5月頃のイコモスによる評価結果の勧告を経て、来年6月頃、ドイツで開催される世界遺産委員会登録の可否が決定されます。

●明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域地図



- 山口県萩市(萩城下町、萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所跡、大板山たたら製鉄遺跡、松下村塾)
- 鹿児島県鹿児島市(旧集成館、寺山炭窯跡、関吉の疎水溝)
- 静岡県伊豆の国市(葦山反射炉)
- 岩手県釜石市(橋野鉄鉱山、高炉跡)
- 佐賀県佐賀市(三重津海軍所跡)
- 長崎県長崎市(小菅修船場跡、長崎造船所 第三船渠、旧日木型場、同ジャイアント・カンチレバークレーン、同占勝閣、高島炭坑、端島炭坑、旧グラバー住宅)
- 福岡県大牟田市、熊本県荒尾市(三池炭鉱宮原坑、同万田坑、同専用鉄道敷跡、三池港)
- 熊本県宇城市(三角西(旧)港)
- 福岡県北九州市(八幡製鐵所日本事務所、同修繕工場、同日鍛冶工場)
- 福岡県中間市(同遠賀川水源ポンプ室)

●三池エリア地図



▲採炭・運搬・積出の一連の採炭システムの流れを知ることができます。

●大牟田・荒尾市地図



▲炭鉱専用鉄道は大牟田市の横須浜、宮浦坑、七浦坑、宮原坑、荒尾市の万田坑、四山を經由して三池港までつながっていました。

「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」は、8県11市にまたがる23の資産で構成される近代化産業遺産の集合体です。

明治初期、政府は西欧諸国に対抗するため、国内産業を発展・活性化させて国力の増大を目指しました。日本は19世紀後半からおよそ50年という短期間で製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業の急速な近代化を達成。このことは経済的な発展を成し遂げる礎となりました。日本の近代化は西洋諸国から技術や知識、機械などを積極的に導入し、日本独自の技術に置き換え、試行錯誤を繰り返して

明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域

しながら成し遂げられました。本遺産群は貴重な遺産を一つにまとめることで、日本独自のものづくりの文化や、世界的にもまれな日本の飛躍的な発展の過程などを時間軸に沿って伝えることができる珍しい事例です。そのため、広範囲に存在する複数の資産を一つの遺産とする「シリアルノミネーション」という方法で世界遺産登録を目指しています。このように広域にまたがり、一つ一つに価値のある資産は他に類を見ません。

三池港をはじめ、構成資産の一部には現在でも稼働し、最先端で活躍しているものもあります。これらの資産を通して、私たちは先人の英知や努力に触れることができるのではないのでしょうか。

私たちが住むまち 三池エリア

三池エリアは、三池炭鉱宮原坑(大牟田市)、同万田坑(荒尾市・大牟田市)、同専用鉄道敷跡(大牟田市・荒尾市)、三池港(大牟田市、三角西(旧)港(宇城市))で構成されています。石炭を産出した坑口、石炭を運搬した専用鉄道、石炭を海外に輸出した港湾という一連の採炭システムの流れを知ることができる日本で最も保存状態のよい資産です。

18世紀半ばから19世紀に欧米で発展した産業革命の影響を受け、日本も西洋諸国に対抗するため、産業化に乗り出します。日本の産業革命の出発点は絹・綿・石炭・製鉄・

大牟田・荒尾・宇城市広報担当者合同特集

私たちのまちに世界遺産を!

来年度の世界遺産登録を目指す「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」。8つのエリアから構成される資産のうちの一つが私たちのまちにある三池エリアです。三池エリアは三池炭鉱宮原坑(大牟田市)・同万田坑(荒尾市)・大牟田(大牟田市)・同専用鉄道敷跡(大牟田市・荒尾市)・三池港(大牟田市)・三角西(旧)港(宇城市)からなります。日本の近代化をエネルギー面で支えた私たちのまちの宝が世界の宝になる日は、すぐそこまでやってきました。

▼万田坑第二堅坑ヤグラ

